

そのメロディに魅せられて♪

カタロニア民謡（カザルス編）：鳥の歌
『鳥の歌～ホワイトハウス・コンサート』収録 C5カ07129 篠崎ほか所蔵

「鳥の歌」はカタルーニャ地方のクリスマス・キャロルを同地方出身のチェリスト・カザルスが編曲したものです。演奏会の最後に平和を願って演奏していたといわれています。この曲を初めて聴いたのは、TVDキュメンタリーでの、チェリスト・徳永兼一郎氏の演奏でした。末期がんに侵されながらもチェロを奏で続ける姿にくぎ付けになりました。当時あまり良い事もなく、ただ生きているだけだった私の心に、あの物悲

しい旋律が響いたのです。このCDはカザルスがホワイトハウスで演奏した時のものです。当時、フランコ政権のスペインを承認していたアメリカで、カタルーニャを象徴する「鳥の歌」が流れている……。早世のチェリスト徳永氏と亡命者カザルス、二人の人生が私の中で重なり、再び心が揺さぶられたのでした。
参考資料『クラシック音楽事典』平凡社 戸口 幸策監修 R760ク 篠崎ほか所蔵

2022年4月1日発行（季刊）

図書館報★篠崎 ぷらっつ 073号



篠崎図書館館長が
みなさんにお伝えし
たい事を記します。

人に薦められて『土と内臓 微生物がつくる世界』という本を読みました。植物も人間も目に見えない微生物の力で生かされているというお話です。
今や生活の一部になっている消毒。ウイルスを殺すことは大事ですが、それによって、人間が生きることに役立っている微生物も殺すことになってしまっているのです。消毒から逃れられない今、自らが大腸の有用な微生物を増やすことを考える必要があります。この本で薦めているのは正しい食事です。野菜と果物を中心とし、それ

P2～P3 特集

人体

- PI 吾亦紅だより
- PI 江戸川まいにんぐ
「江戸川区の力石」
- P4 そのメロディに魅せられて♪
「カタロニア民謡（カザルス編）：鳥の歌」
- P4 スタッフのセレクション
「彼女たちの場合は」

に植物性のたんぱく質と精白していない全粒の穀物を少しだけというものです。
微生物の力を認識し、その人体への影響を知ったうえでも、大好きなパンとお菓子が止められない私。慢性的な疲れと体調不良から抜け出せないのも仕方がないことなのかもしれません。

参考資料

『土と内臓 微生物がつくる世界』
デイビッド・モントゴメリーほか著
築地書館 465モ 篠崎ほか所蔵

スタッフのセレクション！

彼女たちの場合は 江國 香織著 集英社 Fエ 篠崎ほか所蔵

終わりが見えないコロナ禍で、出口の無いような毎日を過ごしている。そんな中で出来なくなったのは、「旅」だ。

「14歳と17歳 少女は二人きりで旅に出た」というキャッチコピーに惹かれて手に取ったこの一冊は、小説でありながらロードムービーの様な風景描写と早い展開に、まるでその場に自分が居る様な錯覚を覚え、ドキドキする。

日本で“ノー”ばかりの人生を送っていた17歳の逸佳は高卒認定試験に受かったのを機に、特に望んでいた訳ではないが、両親の勧めでアメリカ留学をする事に。ニューヨークに住む14歳の従妹の礼那一家のもとに身を寄せて、大学付属の語学学校に通い始める。日本に住んでいた頃から仲の良かった二人は、逸佳にとって唯一“イエス”な事、「アメリカを見なきゃ」という「どこにでも行かれる」旅を始め。「これは家出ではないので心配しないでね。(中略)旅が終わったら帰ります。」という置き手紙を残して。礼那の父親は保守的で二人を探そうとするが、逸佳の両親は「可愛い子には旅をさせよ」と鷹揚だ。
地下鉄の駅や列車の中で触れあった人達、ヒッチ

ハイクの相手などとちょっぴり危ない事も体験しながら、時差のある広大な国アメリカの中を二人は南へ進んでいく。私が江國作品の魅力のひとつだと感じている、個性的な登場人物も彼女たちの旅を彩る。たとえばタトゥーを入れたいかつい見た目編み物をしていたクリスが見せる優しさ。ギャップに驚かされながらも、こういう人いるよなと思える。

礼那の15歳の誕生日を祝った南西部の都市リトルロックで、アルバイトで得た所持金が尽き、とうとう先へ進むのが難しくなる。「帰りの旅費を無心するなんてしない。それはずるい事だ。」そう思えた逸佳は、二人の旅を終える事を決める。ちなみに、これはどこにもはっきりとは書かれていないのだが、私はお金がなくなったのはただのきっかけだったのだと思う。なぜかは説明できないし、二人もそんなことを言っただけでいいけれど、ずっと旅を続けてきた二人がもう帰ってもいいと思えたのではないかと、そんな気がするのだ。まるで、彼女たちと一緒に旅をした様な気分を味わえる一冊。見返しに「二人の旅の軌跡」が記された地図が印刷されているのも楽しい。

編集後記

最近の私の推しは戦国武将の津軽為信です。ひげが立派で「髭殿」と呼ばれてました。(風雲ふわふ丸)／今にも咲きそうに楽しみにしていた水草の花の蕾。金魚が食べちゃいました。ぱくっ。(モノ)／春の花で好きなのは、キュウリグサの青くて小さな花。(ばるめりん)／毎日体のどこかしらが痛いお年頃になりました。(たてじま)／部屋に花を飾ると気持ちいいですね。(すずの木)

編集・発行：江戸川区篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL:03-3670-9102
[しのぎ文化プラザHP] 内篠崎図書館ページ
<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>

▼
ツイッター
やってます！



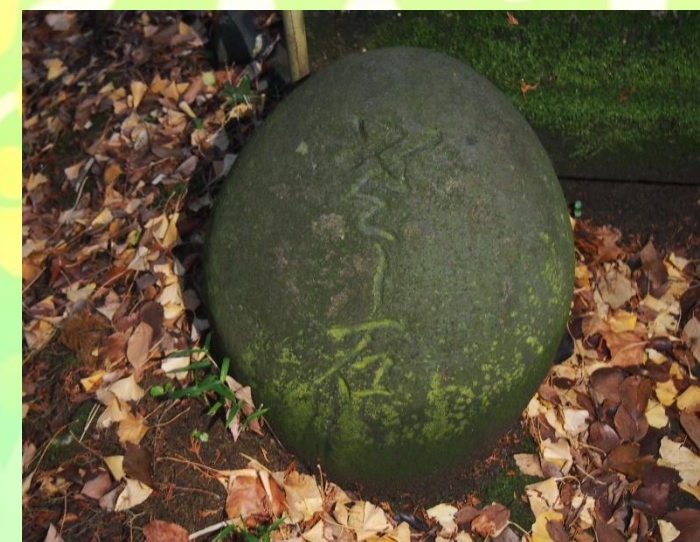
江戸川まいにんぐ 発掘 第73回 江戸川区の力石

力石とは力試し、力くらべに使われた石です。昔の農村の青年は米俵を担ぐなど力仕事をする事が多く、力をつけるための練習や娯楽・競技として力試しをよくしていたそうです。郷土資料「江戸川区の力石」によると、農村地帯であった江戸川区でも同様に、神社の境内や広場で力試しが行われ、使用した力石やそれを記念して奉納した力石などが数多く残っているといえます。中には人名が刻まれた石もあり、出場・優勝した記念に奉納されたと思われる石が複数個ある力自慢の人もいたようです。調査当時、個人宅の庭石や墓石となっているもののほか、寺院、神社など82カ所計332の力石が記録されています。30年以上たったいま、どのくらい現存しているのかわかりませんが、この資料を頼りに力石を探してみたいかがでしょうか。意外と身近にあるかもしれませんよ。

江戸川区内のイベントやスポットについて
スタッフが調査して身近な情報をお届けする
地域密着型のコーナーです。

参考資料

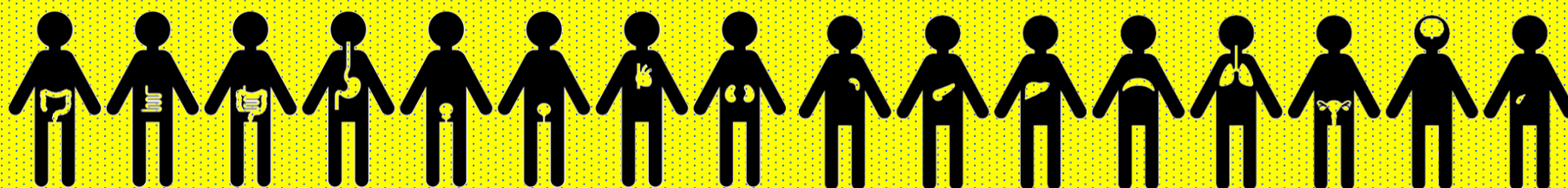
『江戸川区の力石』
鷹野 虎四著 K1-38 篠崎所蔵



↑『江戸川区の力石』に記載されている篠崎浅間神社の力石と思われるもの

人体

医学書だけじゃありません。
カラダにまつわる色々な本を
ご紹介します。



日本史有名な 人の身体測定

篠田 達明著
KADOKAWA
281シ
篠崎ほか所蔵

「源頼朝の身長は155センチ、小柄で頭でっかちの大顔で睨みがきいた」という。遺体の測定や古文書の記述、縁故者の証言などから身長・体格・死因を推定。ヤマトタケルから美空ひばりまで、有名人は実際どんな姿だったのか？ 史実やエピソードを交えて紹介しています。



代体

山田 宗樹著
KADOKAWA
Fヤ
篠崎ほか所蔵

近未来、日本。人間の意識を体から取り出し、人型の器「代体」に移転させる技術が確立。大病や大けがの治療中でも、患者は代体を使い社会生活を継続できるようになった。しかし、そこには様々な制約や問題が……。心と体が切り離されたとき、はたしてどちらが自分なのか？



未病図鑑

渡辺 賢治著
ディスカヴァー・
トゥエンティワン
498・37
篠崎ほか所蔵

頭が痛い、腰が痛い、やる気が出ない。その「なんとなくの不調」、続いているのにそのままにいませんか？ しかしそれは病気に近づく「未病」の状態。自分の不調がどこから来ているのか、まずはカラダの声を聞くところから。「病気のタネ」を根本的に解消する方法を紹介。



20億の針

ハル・クレメント著
鍛冶 靖子訳
東京創元社
B933ク
篠崎所蔵

墜落した二隻の宇宙船に乗っていた犯人と捜査官。高い知性を持つ地球外生命体だが、誰かに寄生しないと生きられない。果たして犯人は、全地球人の中の一体誰にとりついていいのか——。島の少年ボブの体内に落ち着いた捜査官は、慣れない環境(異星人の体内!)にもめげず、ボブと共に犯人へと追っていく。捜査官の生真面目でユーモラスな話しぶりが、微笑ましくて応援したくなる。



食べることで 出すこと

頭木 弘樹著
医学書院
916カ
篠崎ほか所蔵

20歳で潰瘍性大腸炎になった著者。食べて出すことが困難になったことで始まった思索は広く深い。共食を強いる同調圧力の怖さは、かつて自分も経験したことがある。ぼんやりとしか自覚していなかった当時の感情をくっきりと浮かび上がらせてくれた。多くの文学作品からの引用もぴりりと効いていて刺激的な読書体験ができる。



亜玖夢博士のミッド サイエンス入門

橘 玲著
文藝春秋
Fタ
篠崎ほか所蔵

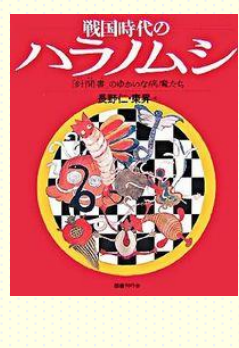
相談無料。地獄を見たら亜玖夢へ——。新宿歌舞伎町、ネオン街の雑居ビルにある亜玖夢研究所。亜玖夢三太郎博士は、底辺の人々の救済を名目にして、様々な相談を受けている。博士の解決策は、何だかおかしい方向へ。亜玖夢博士は、人々の救いになるのか、それとも悪夢か。



人体5億年の 記憶

布施 英利著
海鳴社
491.1フ
篠崎所蔵

解剖学者・三木成夫。生前に刊行された本は2冊だけにもかかわらず、没後出版された遺稿は読者を魅了している。様々な動物を研究対象にし、生命の形態学の秘密に迫った三木の「人間の見方」とは。ユーモラスな人柄にも触れつつ、その独特な世界を解き明かす。



戦国時代の ハラノムシ

国書刊行会
490.9セ
篠崎ほか所蔵

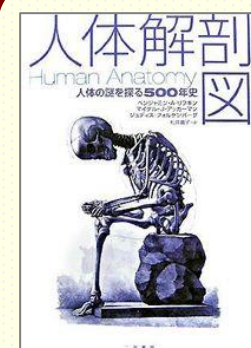
病気は虫が引き起こすと考えられていた戦国時代の医学書・『針聞書』。病気を63匹の虫で表していて、その虫の生息域、特徴、病状、治療法が紹介されています。私が病気になって、獣型や岩石型などの虫が体内にいますと言われたら、ゾッとすること間違いなしです。



解體珍書

福井 栄一編・現代語訳
工作舎
913カ
篠崎ほか所蔵

頭、目、腰など人体の各部位ごとの語源や覚書、諺・慣用句を記し、さらにその部位に関する滑稽な話や怖い話などを古典から集めたアンソロジー。声、涙、翼といった変則的なもの話も収録されています。まずは、自分が気になる部位から読んでみてください。



人体解剖図

ベンジャミン・A. リフキンほか著
二見書房
491.1シ
篠崎ほか所蔵

人体を身ぐるみ剥がし、あらわに描く人体解剖図。医家や芸術家たちは死への恐怖に抗い、生命について研究するため数々の解剖図を残してきた。美しい図版が豊富に掲載され、じっくりと眺めるだけでもあっという間に時間が過ぎてしまう魅惑的な一冊。